

二月の俳句

(2 0 2 2 / 0 2)



目次

たべもの俳句	モロク俳句	歳時記俳句
11	5	1
）	）	）

小草生月（おくさおいつき）・華朝（かちょう）・
仲春（ちゅうしゅん）・初花月（はつはなづき）・
梅津早月（うめつさつき）・建卯月（けんぼうげつ）・麗月・令月（れいげつ）

（宇佐美保幸）メール・zeirisi777usami@aol.com

毎日の俳句は次のブログに
巣鴨とげぬき徒然俳句

<https://blog-haiku.777usami.com>

紅梅や迷妄一掃レイシズム

紅梅や差別偏見人の中

紅梅や薄紅梅やしだれ梅

梅が咲く丸く収めて紅白に

梅の花誰かを待ちて静かなり

梅林や不都合都合迷い人

白梅や色に染まらず頑固かな

歳時記をパラパラめくる梅真白

白梅や真白き嫉妬もまた嫉妬

勝ち負けを超えて自然に猫柳

春が来てまた東京に人多く

立春や昭和の男キャンデイズ

スノードロップ色に染まらずしたたかに

見るだけで壊れてしまう薄氷

枝垂梅我も頭を風日和



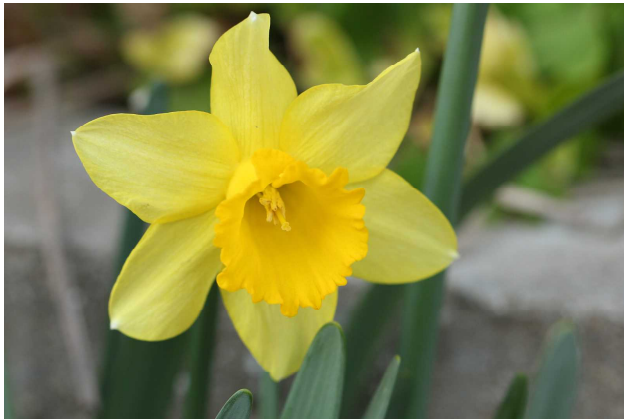
春黄金花生まれの良さがにじみ出る
しがらみがどっぷり詰まる春の泥

万作はなぜ咲きいそぐもじやもじやと
もじやもじやの笑うが如く万作や
肩こりが続くばかりの二月かな

これでもか香りどこまで黄水仙
四人兄弟老いもそれぞれ黄水仙

政治家の決断遅しいぬふぐり
いぬふぐりスマホでチュック花の名を
バレンタイン愛と勇気をコンビニへ
力持ち大地を割りてクロツカス
日脚伸び培養土など準備して

中心に憂鬱があり露の臺
東京砂漠されど街路樹芽吹く春



研ぎすます察知能力木の芽吹く

サックスにベースがからむ雨水かな

春雨も時に爆弾低気圧

春の雨されどゴミ出し決まりごと

距離感をいかに保つか春時雨

早春や整理整頓脳みそを

私には私の風を春の風

洗い観音拭うタオルや水温む

残酷に虫を追いやる野焼きかな

虫ならば全て害虫野焼きかな

野を焼きて吾も芽吹きを地のごとく

アダルトのティッシュ渡さる春が来て

ミツバチのあまたの世界春が来る



忙しなく膨らみ急ぐものの芽や
寒戻るぶつぶつとふるえける

団地にも溢るるとき花ミモザ
ミモザ咲く花を召しませひばり節
花ミモザおしゃれおしゃれと園児たち

なんとなく日々は過ぎゆく二月尽
春はまだ浅いだけなり春を待つ
春待てぬ銚子電鉄うまかぼう



モーロク俳句

モーロクしされどうれしき梅が咲く
 モーロクしほどよき距離に梅の花
 モーロクし人は終わらず梅紅し
 梅満開モーロクすればへそ痒く
 モーロクは止められぬこと梅白し
 モーロクし聞こえぬふりか梅の花
 モーロクし声には出ない福は内
 節分やモーロクすれど豆を食う
 モーロクし感情干からび凍返る
 立春やモーロクすれば何も来ぬ
 立春やモーロクすればあまた嘘
 春が来てされど不安もモーロクし
 モーロクし手足縮んで春めくる



モロククし過ぎて身震い春北風や
モロククし寿命伸縮良寛忌

ちりちりとまんさく咲けどモロククし
よく食べて食べてモロクク春遅遅と
春日遅遅モロククすればせつかちに
梅咲くやモロククすれば黄泉の道

モロククしされどそれぞれ春となる
モロククし行方不明の春となる
春が来て泥に沈むかモロククし

モロククしすべて遠のく春の雲
モロククしとり残されて春の雲

二月にてくしやみ癩癩モロククす
後戻りできぬモロクク二月かな



モーロクし後出し後悔春の風邪
モーロクしされど賽銭冴え返る
モーロクし抛り所なく冴え返る

モーロクし浮かぶ迷いも黄水仙
黄水仙モーロクすれば立ち眩み
モーロクし迷いつぎつぎ黄水仙

モーロクし言葉も翳る余寒なり
余寒かな水晶体もモーロクし
モーロクし何度逃げても春寒や
春寒やモーロクすれば黙り込む
モーロクし春の寒さよ寂しさよ

モーロクし座すべき場所か仏の座
モーロクし何故か気怠さ枝垂梅

モーロクし強気と弱気シクラメン



モーロクし客観主観シクラメン

辛抱の利かぬモーロク白椿
モーロクし戻らざるしも草青む

モーロクし危うくも見えパンジーや
また二月モーロク我の誕生日

モーロクし負けをみとめて春浅し
モーロクしつつがなけれど春浅し
モーロクしもうすぐ春と口癖に

モーロクしぬけがら燃える野焼かな
モーロクしなるようになれ猫柳

モーロクしラジオ体操春隣り
モーロクし気持ち複雑春隣
春隣り苦しみだけかモーロクし

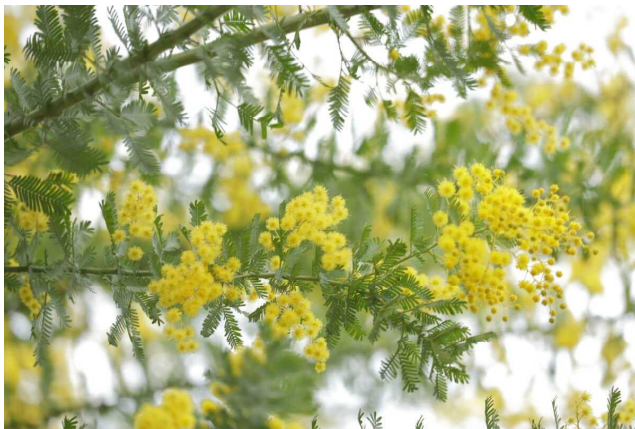


モーロクし 労り合いて 春隣

モーロクし 雨の日 無口ミモザ 咲く
モーロクし 仮の世に すむミモザ 咲く
モーロクし 遠のきし 夢ミモザ 咲き
モーロクし 癩癩 継ぎ目や 花ミモザ

モーロクし 恋猫の 恋昔ごと
モーロクし 崩壊の 音 春時雨
モーロクし をひとま ず忘れ 春の雨
モーロクし 心の壁に 春の雨
モーロクし すべて 馬鹿らし 春の雨
モーロクし 目刺し 真つ 黒焦がし けり

モーロクし 鼻先 ぬらし 二月 尽
モーロクし へと へと 続き 二月 尽
モーロクし 思惑 それ ぞれ 二月 尽
モーロクし テレ ビ 体操 二月 尽





たべもの俳句

梅ヶ枝餅受験勉強春間近
あたたかや今日は上出来オムライス

探梅や後はコロツケ買い求め
テレビロケコロツケハフハフ春隣

立春の蕎麦海老天を二尾も盛り
春が来て生姜焼きです定番で
もつ煮込みキムチを加え寒明ける

お昼には駅弁祭り梅見かな
かけそばにコロツケ加え二月かな
初午に五目いなりのお昼かな

ふきのとうカリカリ天ぷら日本人



建国をビーフステーキで祝いけり
男ひとりいきなりステーキ春の星

うどんにこし熱々すすする冬終わる
まんさくは振れうどんは真つ直ぐに

春が来て立喰ひ蕎麦の誘惑に
ビーフシチュー大人のバレンタイン
バレンタイン牛すねシチュートロトロに

二月の茶柱二本山河かな
プルコギにごま油数滴春を待つ

春光やポテトチップスほうじ茶で
春寒し煮込みうどん夕食を

菜の花のおひたしだしのほどの良さ
菜の花のつぼみを食べて味を知る



通じ合うそれが誤解だ春菊や
焼き餃子やはりキムチも春間近

糸伸びる納豆混ぜて温かし
目刺焼く昭和の匂ひ漂いて
目刺にも上中下とか格差あり

口の中ごまの風味で菜の花を
草加せんべい入れ歯頑張る春が来て
黒髪が戻って欲しいひじき煮る



